

学校プールについて（学校アンケート）

学校名	竣工年度	経過年数	プール改修年度 (プール槽内)	改修後経過年数	構造*	水面積	コース	浄化装置の年式	トイレの有無	更衣室の有無	修理・改修必要の有無とその理由		プール授業についての問題点など
											有無	理由	
第一小	S45年度	49年	H12年度	19年	R C	25×10 =250㎡	6	H5年度	有	有	有	ろ過機が老朽化していて調子が余りよくない。プールの底面の色がはげていて水中の児童の姿が見えにくい。シャワーが手元に止水栓がなくフェンスの外に出ないと水を出したり止めたりできない。適切な薬品庫がない。プール用のトイレや更衣室が老朽化している。水深の表示が見えにくい。	プールの配置が校舎(職員室等)からかなり離れているので、児童の移動に時間がかかる。また緊急時の対応などに時間的ロスが発生する恐れが高い。1~6年生までが同じ水深で利用することは指導上難しさがある。学年ごと水深を変えることと水道料金の問題や水温が低下する問題などがあり常に指導に適した水深を維持することができていない。
第二小	H13年度	18年	—	18年	ステンレス	25×17 =425㎡	6	H12年度	有	有	無	二小のプールは比較的新しく、点検と維持管理の補修を継続していれば、今のところ問題は無い。	①人手の確保（特別な配慮を要する児童が増加する中、監視の目を行き届かせるために増員が必要） ②温暖化対策（学期内の授業はともかく、「夏休み期間中の水泳指導」は温度が上がり、熱中症指数(WBGT指数)が3.1℃を超えることが多く、昨年は中止になる日が多かった。(必要回数に達しない年がある。)
第三小	S39年度	55年	H20年度	11年	R C	25×10 =250㎡	6	H元年度	有	有	有	・プールサイドのコンクリート老朽化による凸凹 ・ペインティングの全体的剥がれ ・ろ過機の老朽化 ・曇りを防ぐプールサイドの屋根の必要性	・指導時間が限られているため、泳力を伸ばす指導は十分に期待できない。 ・水の管理に関して教員の負担が大い。 ・安全を確保するために指導員を増やす必要がある。
第四小	S36年度	58年	H19年度	12年	R C (防水シート張)	25×10 =250㎡	6	S59年度	有	無	有	・プールの機械自体が、かなり古いため、毎年不具合が生じて修理をお願いしている。水質管理に関わる機械なので児童の健康面での心配もあるため新しいものに交換していただきたいが、現状では難しい。古い機械のため、部品の交換等、今後いつまで可能なのかも不安である。 ・プールサイドもコンクリートむき出しで亀裂が入り込んでいるので、危険である。	・今年度のように梅雨が長いと、規定の10時間(5回の授業)程度をクリアすることができなかった。 ・安全面を考慮しての担任以外の補助員の確保が、学校に任せられているため、副校長の業務が増えている。現状は保護者をお願いしているが安全管理の面では心配もある。
第五小	S37年度	57年	H11年度	20年	R C (防水シート張)	25×10 =250㎡	6	H8年度	有	有	無	(記載なし)	○昨年度のような猛暑・酷暑により、プールに入ることが危険である場合の明確な根拠や対応法が示されておらず、学校での対応に苦慮する。WBGTは、気温・湿度・輻射熱などにより算出しているが、プールサイドは湿度・照り返しなどの条件が他と異なる。基準を示していただけると、ありがたい。 ○児童の安全確保のために、補助員の予算化をしてもらっているが、実際に協力してもらえる人材を確保することが難しい。理由は、多々考えられるが、人手不足、地理的条件、気温低下で未実施有の不安定要因などである。
第六小	S51年度	43年	H16年度	15年	R C (防水シート張)	25×10 =250㎡	6	H16年度	有	有	無	(記載なし)	・安全管理から人員の確保が課題。小規模校では予算措置がされても人は学校で探すことになるので。 ・水質管理が課題。小規模校であると管理に当たる人員がなかなか充てられない。
第七小	S54年度	40年	H9年度	22年	R C (防水シート張)	25×10 =250㎡	6	H6年度	有	有	有	プールサイド、壁面のモルタルの劣化。	少人数のため、指導が充実している。
成木小	S37年度	57年	H16年度(壁面) H19年度(床面)	12年	R C	25×10 =250㎡	6	H4年度	有	有	有	プールの老朽化。塗装が剥げ落ち、それらのめくれあがり危険。壁面のひび割れ、コンクリートがむき出しになっている。機械室のろ過機の水漏れ。塩素投入機の水詰まり。	水泳指導期間が短い。天候に左右され授業時数の確保が難しくなる。少人数で指導はしやすいが、児童人数が少ないということは、教員の数も少ない。成木小のような小規模校は、今回、七中の取り組みと同じような内容で進めていくのもひとつの方法だと考えます。プールの改修や修理は、現在の状況だと予算も膨大になるのではないのでしょうか。
河辺小	S46年度	48年	H4年度	27年	R C	25×10 =250㎡	6	H4年度	有	有	有	・老朽化が進んでおり、タイルやプール内の壁のはがれ等、危険箇所が数箇所ある。 ・ろ過機も老朽化が非常に進んでおり、今壊れてもおかしくない状態であり、至急に対策を立てていただきたい。 ・見学者の待機場所も壊れている。修理が必要である。	・課題のある児童等に介助員をつけていただき、大変助かっているが、安全面からさらに考えていただきたい。
新町小	S48年度	46年	H2年度	29年	R C	25×10 =250㎡	6	H26年度	有	有	有	施設設備が老朽化しており、改修が必要だと思います。	児童の安全確保のためにも、指導者の増員をお願いできればありがたいです。学級担任だけでは、指導体制が行き届かない面があります。
霞台小	S50年度	44年	H20年度(壁面)	11年	R C	25×10 =250㎡	6	H3年度	有	有	有	壁面や床面の塗料が剥がれ落ち、児童の目に入る危険があり、大変危険である。	・プールの水質維持するための薬剤の不足 ・授業中の指導員の人数が足りない。
霞台小	H3年度	28年	H19年度	12年	ステンレス	10×6 =60㎡	—	—	—	—	—	—	—

学校名	竣工年度	経過年数	プール改修年度(プール槽内)	改修後経過年数	構造*	水面積	コース	浄化装置の年式	トイレの有無	更衣室の有無	修理・改修必要の有無とその理由		プール授業についての問題点など
											有無	理由	
友田小	S52年度	42年	H16年度(壁面)	15年	R C	25×10 =250㎡	6	S52年度	有	有	有	維持管理等を考えると委託でも良いかと思われすが、自校で、敷地内ですべて実施できることを考えると現状が良い。	・プール衛生上の維持・管理 ・学級減による指導者不足 ・若手教員への研修
今井小	S53年度	41年	—	41年	R C	25×10 =250㎡	6	S53年度	有	有	有	・プールの縁のタイルが老朽化によって何箇所も割れている。児童は水泳をすると皮膚がふやけているので、そういった場所で手等を切ってしまうことがある。(防水性のテープ等で応急処置をしているが) ・プール底面の塗装が経年劣化により何箇所もはがれてしまっている。水質の悪化や児童の安全上の問題を引き起こす可能性がある。 ・プールサイドがコンクリートである。近年の夏の高温化により、床面が大変熱くなることがある。等々	・水泳授業は、体育科の目標に照らしても、大変重要である。(水泳は年齢が重なっても筋肉や関節への負担が少なく、生涯スポーツとして取り組みやすい運動であり、学校体育で経験する意義は大きい。また、水泳は「命を守る力」を身につけることにもつながる。等) 今後も学習すべき運動である。 ・水泳場(プール)の水質管理は、担当者にとって大変大きな仕事となっている。(朝夕に塩素濃度をはかり塩素剤を投入したり、定期的にはろ過機を珪藻土を用いて洗浄したり。勤務時間内で全ての業務を行うことは、授業との兼ね合いから難しく、勤務時間前や後の仕事になっていることが現状である。また、連休の際には、水質を管理するために担当者が休日出勤することも日常的に行われている。) ・本年度のように低温であったり、昨年度のように異常高温であったり、と天候の影響を受けやすく、計画的な学習を進めにくいという面もある。
若草小	S53年度	41年	H18年度	13年	R C	25×10 =250㎡	6	S53年度	有	有	有	全体の老朽化(床のはがれ、水道のコンクリートのひび割れ、欠け、施設のベンキのはがれ)	・水面に浮かぶゴミや小さな虫などの汚れ、水質改善、高温時に水温を下げるための注水などが、水道代金抑制のために十分にできない。
藤橋小	S58年度	36年	H18年度(壁面) H19年度(床面)	12年	R C	25×10 =250㎡	6	H26年度	有	有	有	①ろ過器の老朽化(いつ故障するか不安のため) ②プール周辺の児童待機場所のコンクリートの状況の悪化(水はけや床の暑さを考えると修繕が必要)	①季節的な授業のために大規模な予算配当(修繕等)がつきにくい。 ②水泳授業の事前準備をしても、児童の生命の危険度が高い。指導者数の人数支援(補助者)に限られている。 ③プールの水量管理やろ過器などの機器管理及び薬品管理(維持)や水質維持など、季節的な校務とはいえ職員への負担がある。
吹上小	S59年度	35年	H16年度(床面)	15年	R C	25×10 =250㎡	6	S59年度	有	有	有	・循環器の老朽化が激しく、水質管理に苦慮している。 ・プール本体のオーバーフローの破損がひどく、以前修理をしたが、また子供たちの怪我が増え、再度改修が必要となっている。 ・プール本体の底、以前塗装修理を行った部分が剥がれ、子供たちの足の怪我につながっている。	・学年が単学級の場合の指導者および監視者の不足。(現状：37名の学級 担任と補助員+空き時間の教員に補教として、3人体制での指導)
第一中	H5年度	26年	H20年度(壁面)	11年	ステンレス	25×12 =300㎡	6	H5年度	有	有	無	本校の現状を鑑み、今のところは必要ありません。	・プールの施設管理上の問題もあり、今年度から水泳指導は1学期で終了するように授業を編成しています。 ・プールサイドから砂状のゴミがプールに入ってしまう、衛生上問題がある。
第二中	S59年度	35年	H12年度	19年	ステンレス	25×11 =275㎡	6	H22年度	有	有	有	・プール施設全般の老朽化 ・飛び込み台の撤去希望 ・プール下の教室棟でプールの配管部分の水漏れが続いた。	プールサイドの床面の凸凹が激しく滑りにくいつくりになっているが、足を切る生徒がいた。
第三中	S36年度	58年	H15年度	16年	F R P	25×11 =275㎡	6	H15年度	有	有	無	(記載なし)	副校長・体育科教員が毎朝早くから出勤し、プールの落ち葉や虫の死骸などの除去をはじめ清掃活動をし、きれいな状態に保つよう努力している甲斐があり、本校では見学者がここ数年で激減している。しかし、その労力は大変なものである。働き方改革と逆行している。また、水の使い過ぎに絶えず気を遣わなくてはならないことも重荷となっている。(以前、責任を問われたこともあるので・・・) AEDも所定の位置から移動しなくてはならず、心配である。
西 中	S48年度	46年	H16年度	15年	R C (防水シート張)	25×11 =275㎡	6	H16年度	有	有	無	(記載なし)	・熱中症対策 ・教員2人での指導とプールの監視体制。 ・1学期実施後、夏休みの水質の維持管理が困難。2学期は、水泳は実施していない。
第六中	S52年度	42年	H18年度	13年	R C	25×11 =275㎡	6	S52年度	有	有	有	○ポンプの水漏れが確認されているので、修理の必要がある。(施設等連絡済みである。継続確認中である。) ○プールの水質管理が大変である。現場では、副校長、体育科、用務主事が神経を尖らせながら準備を進めているが、特に、水を入れることでの問題がないように最大限の注意を払っている。(バルブを閉め忘れて水を流してしまうケースがあるので)	○温暖化の影響があるかどうか疑問であるが、昨年度はこの時期猛暑であり、オーバーフローなどで水道代金が増加した。本年度は雨の影響で冷夏の中で年間指導計画の通りにプールを実施しなければならず、生徒の健康上の問題が心配である。 ○プールの水質管理が大変である。現場では、副校長、体育科、用務主事が神経を尖らせながら準備を進めているが、特に、水を入れることでの問題がないように最大限の注意を払っている。(バルブを閉め忘れて水を流してしまうケースがあるので)
第七中	S52年度	42年	S62年度	33年	R C	25×11 =275㎡	6	H25年度	有	有	無	七中では今年度より民間のプールを使用している授業を始めた。今後も継続されると聞いている。もし、学校のプールを使用することに変更されれば、修理・改修しないと使用できない。	民間のプールを活用するため、往復の移動に時間がかかる。また、時間割の調整も必要となる。今年度は本校だけなので、こちらの希望する時期(6~8月)に実施できたが、校数が増えた場合、他の実施校との時期の調整が必要となる。その際、寒い時期になった場合は、生徒の移動時に体を冷やすなど健康管理が難しくなる。

学校名	竣工年度	経過年数	プール改修年度(プール槽内)	改修後経過年数	構造*	水面積	コース	浄化装置の年式	トイレの有無	更衣室の有無	修理・改修必要の有無とその理由		プール授業についての問題点など
											有無	理由	
震台中	S49年度	45年	H2年度	29年	R C	25×11 =275㎡	6	H24年度	有	有	有	本校の現状として水漏れが疑われるため、来年度の実施に向けて早急な修繕が必要である。学校のプールについて、短期間の利用とはいえ、保健体育科として水泳の授業を取り組むことには大きな意義がある。	技術指導や生徒の安全等、保健体育科の教諭が研修を積み重ねることは当然だが、水質管理や衛生管理、休日や長期休業の管理など勤務時間外の対応も必要となり、保健体育科の教諭のみでは不可能である。
吹上中	S56年度	38年	H2年度	29年	R C	25×11 =275㎡	6	H26年度	有	有	有	・老朽化による劣化防止として、プール底の塗装を再度行う必要がある。 ・紫外線や熱中症予防のため、プールサイドに生徒全員が入れる日よけを設置する必要がある。 ・水質管理の徹底として、プールに落ち葉や動物等の糞が入ってしまうことを避けるためのカバーが必要である。 ・水栓の一部に不備があり水漏れしているので補修が必要である。元栓があるので、大きな被害はないが不便である。 ・排水溝に桜の樹の根が入り込み破損したため修理をした。再発を防ぐため、プール周辺の樹木を伐採する必要がある。	・プールが山沿いの傾斜に設置されているため、樹木の葉が常に入り込む。 ・プールが校舎から離れているため、雷等の急な悪天候時に避難する経路が遠い。 ・温暖化による紫外線防止や熱中症等の対策を行うための施設・設備が整っていない。 ・水質管理にかかる費用や業務負担が大きい。 ・室外プールのため天候不順時にはプール指導が行えず、体育の授業時数が確保できない。 ・プール指導実施可能日が限られているため、体調不良や生理等の関係で授業を受けられない生徒に十分な補習ができない。 ・プールとプールサイドとが狭く、準備体操や水上練習が十分に行えない。
新町中	S58年度	36年	H17年度	14年	R C	25×11 =275㎡	6	S58年度	有	有	無	プールの使用期間も短く、修理・改修にお金をかけるのは無駄である。他に予算を使うべきものがたくさんある。	・本校独自の問題として、特定の近所の人(元有力者)から、プールの騒音について苦情がある。そのため夏休みの水泳指導は実施していない。また、薬剤の投入や学校への配置量も十分ではなく、維持管理が難しい状況にある。そのため、水泳指導をできるかぎり1学期中に終わるように努力しているが、天候等の影響から学期中に終わらないこともある。 ・1学期中に終わらそうとすると、悪天候でも入ることがあり、その場合は健康面が心配である。また、晴天であっても、WBGT指数を気にしたり、熱中症等の心配があり問題は多い。 ・民間の屋内プールの活用については、移動時間等の問題が解決できるのなら有効な手段と考えられる。
泉中	S58年度	36年	H9年度	22年	R C	25×11 =275㎡	6	S58年度	有	有	有	プールそのものについて プールの底や壁面の塗装がはがれており見苦しい。また、プールサイドもコンクリートの劣化が激しい。 プールの水を浄化する機械や、水量および水浄化システムについてすでに耐用年数を過ぎており、機械から大きな音が発生している。騒音の授業や近隣住民への影響を考えると、本来ならばすぐに交換すべき状態である。機械の交換に当たっては、働き方改革の観点からも、水量管理から浄化システムまで自動で行うことができるものにしていただきたい。	授業以前にプールの維持管理が、教職員にとっても市にとっても大きな負担となっている。 水泳の指導時数確保に苦労している。夏休み前後に授業を行わなければならないため、夏休み中の水質管理にも注意を払わなければならない。学校閉庁期間の対応に苦慮している。現実には藻が生えてしまい、事後処理に大変苦労した。 全小中学校のプール改修または新設することは財政面から難しいと思われるので、今後はプール借用と水泳授業を併せて民間へ委ねることが得策であると考え。市営温水プールをつ作り、セントラルと併せて、年間を通して学校ごとに割り振りすれば実現可能であり、長い目で見れば財政面でも有効であると思われる。 また、更衣室の床面やプール周辺の床面の劣化によりコンクリートがはがれによる生徒の怪我防止対策としてプラスチック製スノコを購入したところであるが、予算不足により実現できず、不安を抱えながら授業を行っている。
東小・中	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	無	本校は都立誠明学園内にある青梅市立の小中学校であり、プール設置は都にあたるため。	児童生徒を安全に指導するために、介助員、支援員等、配慮してほしい。
「有」の計	—	—	—	—	—	—	—	—	26	25	18	—	—

* RC：コンクリート製
A：アルミ製
FRP：繊維強化プラスチック製

◎ 修理・改修必要「有」小・中別

区分	「有」の数	備考
小学校	13	16校中(東小・中除く。)
中学校	5	11校中(東小・中含む。)
合計	18	